



東北支部セミナー開催報告

盛岡のIT・AI・IoT・DX・ものづくりの連携プラットフォーム

2025年8月27日に、盛岡市主催、JASA 東北支部およびビジネス交流委員会共催によるセミナーをいわて県民情報交流センター アイーナにて開催いたしました。

本セミナーでは、盛岡市のAI・IoTプラッ

トフォーム事業のご紹介に加え、DXビジネスの最前線および社会課題解決による地方創生をテーマとした講演を実施しました。参加者はオンライン参加者含めて73名と多くの方々にご参加いただきました。

Wheから始めるDX
一意味性が企業を強くする

清水建設株式会社の及川洋光氏より、DXの最前線についてご講演いただきました。講演では、フォアキャスト思考に偏らず、バックキャスト思考を取り入れて戦略を練る必要性が示されました。また、DX時代のイノベーションには、利便性の追求だけでなく、物事の「意味性」を重視することが重要であるとのお話がありました。

廃棄りんごから生まれたエシカルレザー

appcycle株式会社の藤巻圭氏より、社

会課題の解決を通じた地方創生についてご講演いただきました。

レザー業界における、動物由来・石油由来素材から植物由来素材への転換という潮流を踏まえ、青森県のりんご産業で大量に発生する廃棄りんごを活用した循環型ビジネスモデルを構築された事例が紹介されました。また、藤巻氏はビジネスにおいて、なぜそれを行うのか、何のために存在するのかという目的意識、すなわち「大義」を常に大切にしているとのことでした。

講演後には、共催であるJASAビジネス交



セミナーの様子

流委員会・大和靖博委員長より、組織の概要や活動状況、今後の展望のご紹介と、参加者へのプロモーションを行いました。

参加者アンケートでは、「これから日本が向かう方向性が参考になった」「様々な視点から物事を考える事が大切だと思いました」といった好意的なご意見が多数寄せられました。また、セミナー終了後には、講師お二人を交えた懇親会も開催され、情報交換を行いながら親睦を深めることができました。

北海道支部交流セミナー2025開催報告

地方創生、安心・安全で強靭なデジタルフロンティアの構築に向けて
～北の大地・北海道から生まれる新たな価値の創出～

開催会場：TKPガーデンシティ札幌駅前

開催日・時間：2025年09月18日(木) 15:00～18:00 / 交流会 18:00～

第1部：「廃棄りんごから生まれたエシカルレザー『RINGO-TEX』を通じて社会課題の解決と地球環境への貢献を目指す」

appcycle株式会社 代表取締役・藤巻圭氏より、廃棄物に新たな付加価値を与えて、新しい商品へ生まれ変わらせ、世界へ届ける地方創生の取り組みについてご講演いただきました。その熱意あるお話から、事業にかける熱い思いが伝わり、参加者にとって有意義で、理解を深める良い機会となりました。



第1部の藤巻圭氏

第2部：「変革期の北海道：組込みシステムデータが描くレジエントな未来」

GoogleCybersecurityCoE 執行役員・内山純一郎氏より、地方都市が抱える課題とセキュリティ対策についてご講演いただきました。

事業を拡大する上で、組込みシステムのセキュリティ対策は必須です。講演では具体的な事例を交えながら対策の必要性が説明され、その重要性を再認識することができました。また、対策費用を「コスト」と捉えるか「投資」と捉えるかという視点は、今後の課題を考える上で大変参考になるものでした。

セミナーには、来賓6名、講師2名、講演・運営10名を含め、合計72名の方々にご参加いただきました。盛況のうちにセミナーを終えることができましたことを、心よりお礼申し上げます。

第2部の内山純一郎氏



| 関東支部 | 懇親会（屋形船）

8月28日(木)関東支部例会後、懇親会を開催しました。昨年・一昨年とクルージングを行っておりましたが、今年度は久しぶりに屋形船で実施。参加者43名。会員皆さま同士、名刺交換や意見交換が行われました。また、今回ご講演頂いた、『Join&Make』で作られた日本酒もふるまわれました。

新卒求人活動支援 ー人財交流委員会

JASA人財交流委員会では、2025年8月29日(金)に「交流祭典2025 in 関東」を開催しました。

本イベントは、関東圏の学生および学校関係者の皆様を対象に、組込みシステム業界および会員企業の認知度向上を図り、継続的な関係を築く機会を提供するとともに、会員企業の新卒求人活動を支援することを目的として、広く、学生・学校関係者、JASA会員企業に向け開催されたものです。

当日は、冒頭に組込み業界の説明を行った後、参加いただいた会員企業12社の皆様により、各社5分間、ライトニングトークの形式で企業説明を行っていただき、3社の説明毎に随時懇談の時間を設け、学生、学校関係者、参加企業の交流を行っていただきました。

特に今年度は、これから就職活動を開始する1年目、2年目の学生に焦点を当てるため、未成年も参加可能なアルコールの提供を行わないイベントとして実施しました。結果的に、主に専門学校の学生の方々に多数の参加をいただくことができ、参加した学生の皆様にとって、自身のキャリアを考える上で意義のある時間を提供できたものと考えております。

参加者からは、業界のリアルな声を聞くことができ、今後の就職活動に役立つ情報が得られたとの声も聞かれました。

一方で、参加者数においては、昨年度と比較して大幅な減少となった事は否めず、今後の開催内容について、大きな課題を残すことになりました。次年度の開催につきま



▲会場の様子

しては、学生の参加に固執せず、学校関係者との強固な連携を築き、その結果として学生につながるよう、学校関係者との交流をメインテーマとしたイベントとすることも考慮に入れつつ、開催内容を検討していきたいと考えております。

近畿支部 お月見会

爽やかな秋風が心地よい頃、近畿支部では、9月17日(水)に「お月見会」を大阪の新名所「グラングリーン大阪」内の「THE JACKSON GARDEN」にて開催いたしました。支部会員の皆様とのさらなる交流を目的として企画した本会には総勢40名にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

会場となったTHE JACKSON GARDENは、都会の中心にありながら豊かな緑とハイエンドな街並みが交差する非日常的で洗練された空間です。大きな窓からはうめきた公園の美しい夜景と緑が広がり、開放感あふれる雰囲気の中、和やかな時間が流れました。



◀会場の様子

旬の食材を活かしたフレンチのフルコースは目にも美しい逸品ばかりであり、参加者の皆様にも大変好評で、食事を楽しみながら会話も弾んでいる様子が印象的でした。日頃会社の垣根を越えて顔を合わせる機会の少ない皆様が、リラックスした雰囲気の中で本音で語り合い、笑い声が絶えない熱気で満ちた交流の場となりました。

また、「グラングリーン大阪」という注目度の高い場所での開催であったことも、話題に一層の花を添えていました。

業務に関する真面目な意見交換からプライベートな話題まで、時間が経つのを忘れるほどの盛り上がりを見せ、今回の懇親会は「会員同士のさらなる連携強化」に繋がる貴重な機会となりました。

親睦会の様子▶

お台場や、スカイツリーの2か所を訪れ、素晴らしい夜景を堪能しながら、会員様同士が写真撮影をしたり、普段の会議室やお店では見られないような交流が盛んに行われました。今後も会員企業同士が活発に交流のできる場の提供や雰囲気作りに努めたいと考えております。



ドローンフィールドの見学

— 東京都立産業技術研究センターとの取り組み紹介 —

シミュレーションPF活用WG 主査 牧野進二

シミュレーションPF活用WGとOpenEL活用WGは合同で、2025年8月25日に地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターの傾斜路走行試験装置および屋内広域モーションキャプチャシステムを見学した。最大傾斜12°の傾斜が利用でき、ロボットの走行時の性能を評価できる。ドローンの飛行に関する評価も可能ということで見学を行った。

試験フィールドの全体は図1の通りである。実際にドローンとして飛ばせる機体はペイロード制限があるが、天井に配置されたモーションキャプチャのセンサーを利用した飛行解析ができる。

傾斜路走行試験装置という名前の通り、傾斜を最大12°まで傾斜できる装置となっていて、地上を走行するロボットとの連携動作などの試験も可能である。

傾斜路走行試験装置は天井にカメラ30台が設置されており、赤外線反射マーカーの3次元位置を計測する。遮蔽に対応可能なように地上設置カメラを4台追加可能である。計測範囲は幅10m×奥行15m×高さ5~6m、測定分解能は±10mm以下(静態時2~5mm程度)、サンプリング周期は30~200fps。

利用用途

ドローンの利活用にあたっては、8ページのWGの紹介記事でも記載したとおり、マルチモーダルでの検証が必要になってくる。本フィールドを利用して、マルチモーダルの検証ができると考える。

また、モビリティ同士の連携検証や、人とモビリティ連携の検証などにも活用できる。天井に配置されたモーションキャプチャのセンサーを用いれば、最適な連携動作方法の実証実験が可能である。

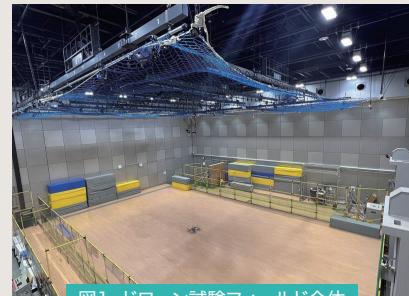


図1 ドローン試験フィールド全体

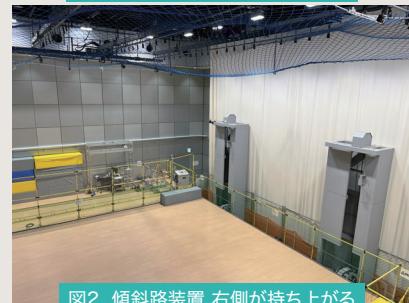


図2 傾斜路装置 右側が持ち上がる

傾斜路走行試験装置紹介ページ：<https://www.iri-tokyo.jp/service/search/robo-2019-ramp/>
 屋内広域モーションキャプチャシステム紹介ページ：<https://www.iri-tokyo.jp/service/search/robo-2025-mocap/>
 試験フィールド申し込みページ：<https://www.iri-tokyo.jp/guide/counter/>
 (試験フィールド使用希望の場合は、電話・FAXまたは技術相談受付フォームでの旨連絡のこと)

ヤマハコミュニケーションプラザ見学会を開催

OpenEL活用WG主査 アップウインドテクノロジー・インコーポレイテッド 中村憲一

2025年9月2日、OpenEL活用WGとシミュレーションPF活用WG合同でヤマハコミュニケーションプラザを見学後、ヤマハモーターエンジニアリング(株)様を訪問した。今回の見学会および訪問は、2025年7月にグランフロント大阪で開催されたEdgeTech+ West 2025のJASAパビリオン内OpenEL活用WGのブースにヤマハモーターエンジニアリング(株)の方が来場されたことがキッカケで実現した。

最初に訪れたヤマハコミュニケーションプラザでは、ヤマハ発動機(株)の歴史を学び、船外機、産業用無人ヘリコプター、産業用マルチローター、産業用ロボット、バイク・スクーター、自動車用高性能エンジンなど過去の製品と最新の製品を見学した。

現代のバイクには自動車と同様に電子制御技術の進化により、様々なECU(電子制御ユニット)が搭載されている。例えば、バン



▲ヤマハコミュニケーションプラザ内で



ク角に応じてリアタイヤの駆動力を制御するトラクションコントロールシステム、リアタイヤの横滑り情報をエンジン出力に反映するスライドコントロールシステム、スムーズなシフト操作をサポートするクイックシフトシステム、ブレーキ圧を制御するABSなどだ。これらのECUには、バイクの姿勢やタイヤの横滑りを検出するIMUをはじめ多数のセンサーやアクチュエーターが使用されているため、OpenELの活用が期待される。

続いて訪れたヤマハモーターエンジニア

リング(株)様では、ハードウェア技術者、ソフトウェア技術者の方々にお集まりいただき、JASAからOpenEL、シミュレーションプラットフォーム、組込みシステムのセキュリティの最新動向について紹介した後、活発な質疑応答が行われた。

今回の訪問により、JASAの活動に興味を持っていただくことができたので、今後もOpenELやシミュレーションプラットフォームを活用いただけるユーザーを積極的に訪問したいと思う。